

「あいち科学の甲子園 2024」に本校生徒が参加しました

令和6年11月10日（日）

令和6年11月10日（日）に東郷町にある愛知県総合教育センターで、「あいち科学の甲子園 2024」が開催され、本校の生徒6名が3月に実施される全国大会出場をかけた参加しました。

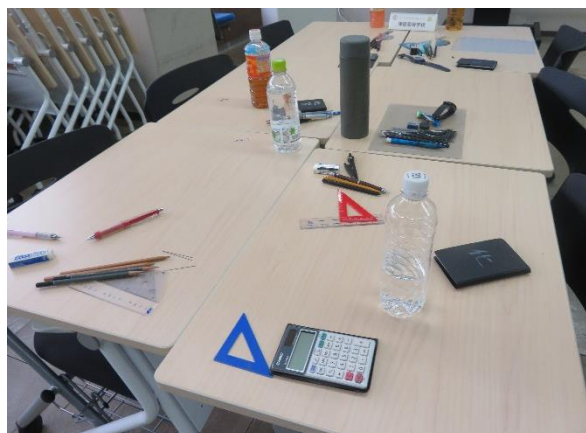


この大会は、全国の高校生1，2年生が対象で、科学好きの裾野を広げるとともに、将来に向けた科学分野における人材育成の強化を図る目的で開催されています。

過去に13回全国大会が開催され、そのうち愛知県代表は3回全国大会で優勝している強豪県です。今年度は、県内23校から23チームがエントリーしました（昨年度の愛知県代表は愛知県立一宮高等学校でした）。

大会当日は6名一組のチーム戦で行われました。

最初に6分野（物理、化学、生物、地学、数学、情報）にわたる1時間の筆記競技が行われました。これはチーム全員が同じ会場で机を並べ、ペーパー問題に取り組むというものです。時にはチーム



の仲間に相談しながら、自分の得意な分野を中心に解答していきました。

次に、化学分野と数学分野に分かれて、実技競技が行われました。ここでは、与えられた課題についてチームで解決方法を考えていくという、探究的な学びにつながる課題解決が求められました。



参加した生徒達は、頭の中を最大限アクティブな状態にして与えられた課題に取り組みました。

津島高校は、今後さらに SSH 認定など理系科目に力を入れていきます。今回参加した6名はその目標を具現化する先駆者になってくれました。

6名の皆さん、引率者の伊木先生、運営委員の川手校長先生、本当にお疲れ様でした。

これからも津島高校は、国際理解教育と並んで理系教育や探究学習に積極的に取り組んでまいります。ご期待ください。



教頭 金澤 学

## ●感想を率直にお聞かせください。

- 初めてこういうイベントに参加してみて、固苦しいかなと思っていたが、思ったより楽しくて、期間は短かったが、集中して力を入れて準備も本番も取り組むことができた。挑戦してみてよかったなと感じた
- 最初は不安だったけど、実際に始まると難しい事をみんなで協力して解決するのが楽しかった

## ●今後に活かせそうなことは何ですか？

- 難しい理科の問題を身近な科学として捉えてみるとより理解しやすくなった
- 与えられたものだけをやるんじゃなくて、自分で材料を見つけて勉強ができる力というのは、大学入試でも大人になってもアドバンテージになると思う
- 得意だからでなく、好きだから挑戦するチャレンジ精神
- 仲間と協力することの大切さ

## ●科学の甲子園への参加で学んだことは何ですか？

- 過去問だけじゃなく、自分で資料を見つけてそれを使って勉強するという自主的な勉強の仕方、実際にやって覚えることができた。
- テストのために勉強するのではなく、自分で興味を持って学習することが面白く、多くの発見があった。また、本番において、分からない問題も多く出会ったが、逆にそれが（その後の）学習意欲に繋がった。
- チームのみんなと問題を解くということの大切さや楽しさを感じた。
- 難問に挑戦する事の大変さと解けた時の達成感を学んだ

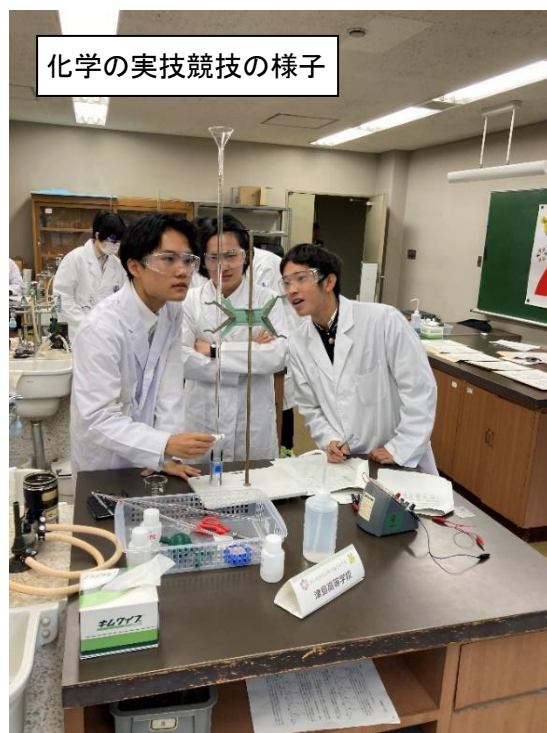
### <競技に臨む本校生徒の様子>



筆記競技に臨む生徒6人



数学の実技競技に  
チャレンジ



化学の実技競技の様子